

事例研究報告

特別支援学校小学部低学年の児童が
自ら行動しようとするための指導

児童の実態

小学部児童 肢体不自由

- 介助を受けて立位の保持や歩行を行い，自力で座位がとれる。
- PCW(歩行器)を使用して，自力で移動することができる。
- 動作はゆっくりであるが，物を把持したりつまんだりすることができる。
- 意思の表出
 - Yesは，笑顔になったり自分の方へ引き寄せたりする。
 - Noは，顔を背けたり手でさえぎったりする。
- 表出言語
 - 「はい(名前を呼ばれたときの返事)」「ちゃちゃ(お茶)」
 - 「でた(排尿の報告)」「てんてえ(先生)」「でった(できた)」等
- 「ください」と言われたら，持っている物を手渡すことができる。
- 頼みたいことがあるとき，促されると，両手を合わせてお願いのサインができる。

教師の願い

本児は、日常生活全般において支援が必要なため、行動面では、受動的になることが多い。

表出面では、自分の意思や要求をはっきりと伝えられないことが多い。

- ①支援ありで、自分の意思で動き出せるようになってほしい。
- ②意思や要求を、カードやサインで伝えてほしい。

具体的には、カードに示された活動内容がわかって行動できる。

カードを渡すことで、意思を伝えることができる。

将来的には、カードやiPadのアプリで示されたスケジュールがわかり、見通しを持って行動ができる。

カードやサイン等で、意思や要求を伝えることができる。

児童の長期目標

スケジュールを理解し、活動内容を理解して行動できる。

〈スケジュールの提示方法〉

「ドロップス」のイラストを使用し、スケジュールをカード化する。
活動が終わるごとにはがし、Boxに捨てる方式で行う。

1 回目当時の指導内容

①日常生活の中で、毎日繰り返し行う活動において自分の意思でその場所へ移動しようとするための支援を行う。

〈実践〉 ・「トイレへ行く活動」

（「トイレ」のカードを確認した後）

トイレとは、90度違う向きに立たせたとき
トイレの方向に歩き出すことができたか

アドバイザーからの助言

①スケジュールの示し方

- ・カードに示すものは、本人の認知レベルに合わせる。
 - * 簡単な方から「実物」→「実物の写真」→「イラスト」
- ・2つ提示よりも1つ提示がよい。
 - * 何もないところに1つだけある方が注目しやすい。
(注意のコントロール)
- ・本児がカードに意識を向けるようスケジュールボードは教師が持つ。さらに、本児にもカードをポインティングさせる。
 - * カードは、平面に置くより縦に置く方が注目しやすい。
- ・音声の模倣をさせる。
 - * カードを提示するとき、教師が音声でモデルを示す。
本児は、カードをポインティングしながら音声を模倣する。
- ・刺激を少なくする。
 - * 机の上には何もない状態にして、1つだけ示すことで注目しやすくなる。

アドバイザーからの助言

②意思や要求の伝え方

・カードを使って、本児から要求させる。

*** 実物の写真(本人の好きな物)で要求の練習をする。**

本児が実物に対して手を伸ばしたら

(1)本児にカードを渡す

(2)本児にカードを渡すように促し、要求させる

(3)カードと引き替えに実物を渡す

③その他

・ルーティンの記録をとる。

*** 課題分析を行い、ステップを作る。**

どれくらいのプロンプトでできたか記録をとる。

〔 身体的介助→モデル→指さし・視覚的な手掛かり
→声かけ(直接的・間接的) 〕



どこでつまずきやすいか、どこまでできているか
1年を通してみたら変化がわかる

助言を受けての見直し

①スケジュールの示し方

- ・ドロップスのイラストに興味を示し、指さしたり、教師の言葉の一部を真似したりする行動が見られた。
 - * 動作語や教科名: イラスト, 持ち物類: 実物の写真
- ・カードは, 1つ提示にする。
- ・教師が対面に座り, スケジュールボードを提示して, カードへの注目を促す。
- ・机の上に置くものは, 1つだけにする。
 - * スケジュールボード, ランドセル, かごと入れ替えながら必要な物のみを机の上に置く。
- ・スケジュールを確認するとき, 音声でモデルを示しながら, サインも本児と一緒に行う。
 - * 「トイレ」: お腹を叩く, 「きがえ」: 服の胸元を引っ張る
- ・移動先にもその活動を示すイラストカードを貼っておく。再度, 音声とサインで確認する。

助言を受けての見直し

②意思や要求の伝え方

・カードを使っての要求(好きな物=ボール)

* 対面学習の中で、手続きの練習をする。
課題後の“ごほうび”として取り入れる。

手順書の最後に、ボールの写真カードを貼っておく。

(本児がカードをはがしたら)

- 「ちょうだい」と言って、カードを渡すように要求する
- カードをもらったら、ボールを手渡す
- キャッチボールをして一緒に遊ぶ

* 般化場面:休憩「あそび」の時間

あそびコーナーの壁に、ボールの写真カードを貼っておく。
ボールは見えるけど、手の届かない所に置いておく。

(本児がボールを見て、欲しそうな素振りを見せたら)

- カードを指さして、「ちょうだい」と言う
- カードをもらったら、ボールを取って手渡す
- キャッチボールをして一緒に遊ぶ

2回目当時の指導内容

①日常生活の中で毎日繰り返される活動において、自分の意思でその場所へ移動しようとするための支援を行う。

〈実践〉 ・「トイレに行く活動」
・「着替えコーナーに行く活動」
 （「きがえ」のカードを確認した後）
 自ら這って、着替えコーナーへ行くことができたか

②カードやサインで、自分の意思や要求を伝えるための支援を行う。

〈実践〉 ・欲しい物(ボール)があるとき
 カードを渡すことで、要求するように促す
・スケジュールを確認するとき
 音声でモデルを示しながら、サインも本児と一緒に言う
 （「トイレ」、「てあらい」、「きがえ」など）

児童の変容

- ・提示の仕方を変えたことで、カードに注目しやすくなった。
- ・カードを指さしながら、教師が言った言葉を真似して発声するようになってきた。

「トイレ」→「ててえ」 「てあらい」・「あらう」→「あ～」

「きがえ」→「え～」(他の場面…「はみがき」→「は～」)

- ・教師がカードを指さすと、**自らサインを出すようになってきた。**

「トイレ」→ お腹をポンポンと叩く

「きがえ」→服のお腹の辺りをつかむ

(他の場面…「はじめます」→手を広げる(手話)

「おわります」→手を握る (//)

- ・「トイレ」カードを確認した後、**意欲的にトイレの方に行くようになった。**
- ・「きがえ」カードを確認した後、**自ら這って着替えコーナーに行くようになった。**
- ・「ちょうだい」と言われると、**はがした(ボールの)写真カードを、手渡すようになった。**

教師の変容

- 机の上を整理したことで、テンポよく指導できるようになった。
- 手続きを整理し記録をつけることで、本児の苦手な手続きがわかりやすくなった。



「指さしをしながら発声」



「ボードに示された物を出す」



「かごに入れる」

注目しやすいように、机の上はシンプルに!!



「着替えコーナー」

移動した先にも、確認をするためのイラストカードあり



「トイレコーナー」



「あそびコーナー」

壁には要求のためのカードあり

現在の課題

本児には意欲・関心の持続にムラがあり、ブームが去るとしていたことをしなくなる傾向がある。飽きやすいところがある。

- ・ 教師が「きがえ」と伝えと、一目散に着替えコーナーへ行っていたのが行かなくなった。その後、わざと教室から出ようとすることが増えた。

(身体的支援で、連れて行っている)

- ・ 「トイレ」カードを見ると、自らお腹を叩いて、誇らしげにアピールしていたのが、促されてもしなく(拒否的に)なった。

(身体的支援で、一緒にサインを行っている)

- ・ 「ボール」カードを指さしても、はがすことを拒否することがある。

(2回同じことを繰り返したときは、「おしまい」を告げている)

- ・ 「ボール」カードを「ちょうだい」と言われると、はがしたカードをわざと後方に捨てることがある。

(2回同じことを繰り返したときは、「おしまい」を告げている)

- ・ 「ダメだ」と言われることをしたがる。無視しても繰り返す。

相談内容

- 物を介すると、あそびになることが多い。
サインにはまることがあるので、サインを使ってもいいか？
→ **積極的に使うとよい**
- イラストカードやサインを見て発声することがある。
聞き慣れた人にはわかるが、伝える手段としては厳しそう。
本児のモチベーションを上げるために、このまま発声を促してもよいか？
→ **よい、本人の自発的な行動は大切に拾ってあげる**
- 行動面では、場所やカードが示す意味がわかると移動できる。
わざと別のことをしたり、別の所へ行こうとしたときは
とりあえず阻止をして、正しい行動を待てばよいか？
→ **よい、待てるときはできるだけ待つ**
- 「ダメだ」と言われることをしたがるとき
危険なときが多いので、止めたり注意をしたりしているが、
どうすればよいか？
→ **とめる、可能な場面では相手にしない**

アドバイザーからの助言

- ・飽きやすい＝学習しやすい＝学習能力は高い
 - * 教材をプチ変更するのが有効
 - 定期的にリニューアルすることで、マンネリ化を防ぐ
- ・言葉の模倣
 - * 子どもが言った言葉を、同じような音で返す(逆模倣)
 - * 動作に対して、音や声を重ねてあげる
 - * 子どもの指さしに対して、その名称を音声で答えてあげる
- ※不明瞭でもいいので、たくさん繰り返すことが大切
- ・要求の教え方
 - * 要求したい対象があることが前提
 - * 反応できたら強化 ⇔ 反応しない場合は強化しない
- ・テンションのコントロール
 - * テンションを上げるためには、一定時間内のユニット数を増やす ⇔ 下げるときはユニット数を減らす
 - (教示→子どもの反応→フィードバック)

アドバイザーからの助言

- ・問題行動のきっかけは、教師からの注目が少ないこと

- * 他者の注意を引くためのとき

- クールに止める(無反応に近い), 可能ならば相手にしない
(一旦エスカレートするが, しばらくすると収まる)



何でもないときに, たくさん注目してあげる

- ・問題行動は注目されやすく

- ちゃんとできている行動はスルーされがち

- * 一日の注目の合計量は減らさない



適切な行動に注目し, 注目に飢えがない(満腹状態)ようにする
先生の注意を引く別の行動を教える

**※問題行動には, その人なりのメッセージが込められている
その人のメッセージを止めるのではなく, 適切な道筋を
作ってあげることが大切**

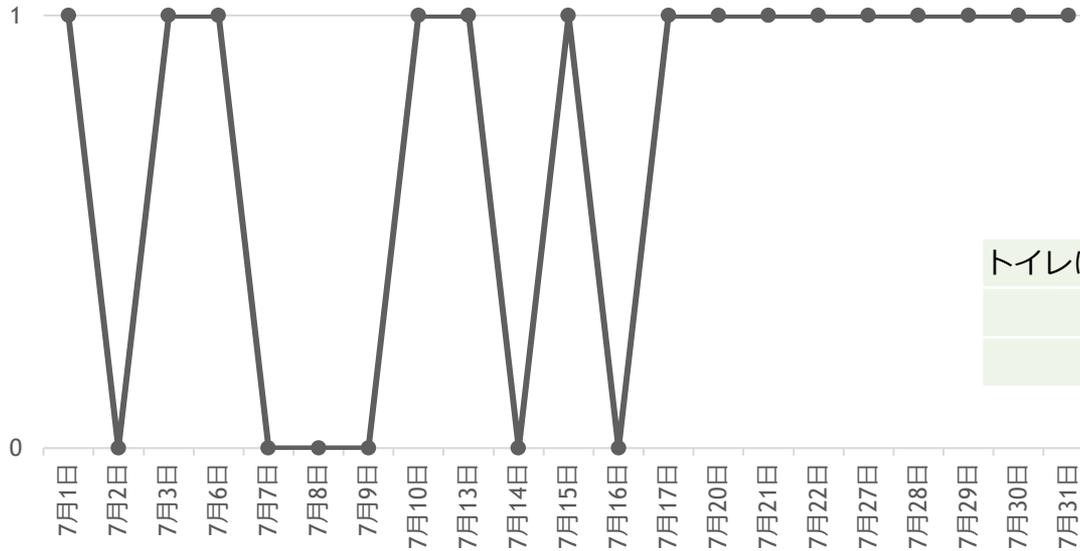
1回目当時～現在

- ① 排尿の報告ができたか [6/8～]
- ② トイレとは90度違う向きで立たせたとき
トイレの方に歩き出そうとしたか * [7/1～]
- ③ 「のむ」のイラストカードを見て
水筒をさわろうとしたか [7/7～]
- ④ 「ねつをはかる」(体温計)のカードを見て
体温計を取ろうとしたか [7/13～]

2回目当時～現在

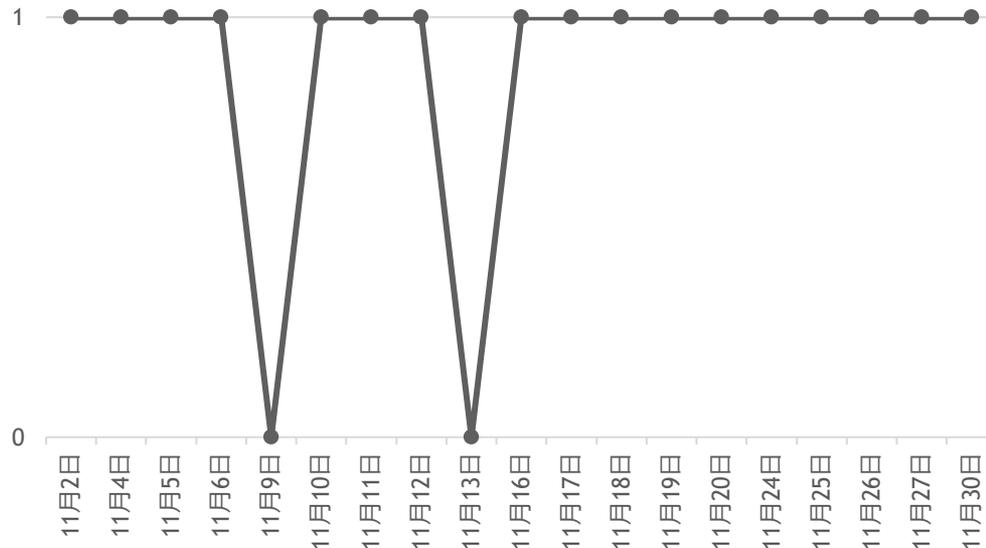
- ① 「きがえ」のカードを見て
着替えコーナーへ行ったか * [9/7～]
- ② 「トイレ」のカードを見て
サイン(お腹を叩く)をしたか * [9/28～]
- ③ 「ねつをはかる」のカードを見て
サイン(おでこをさわる)をしたか [10/19～]
- ④ 「きがえ」のカードを見て
サイン(服の胸元をつかむ)をしたか [10/19～]
- ⑤ 「ボール」の要求
カードをはがしたか、渡したか [9/25～]
- ⑥ 「朝の活動」における支援の度合い [11/2～]

トイレに向かう



トイレに向かう	
トイレに向かう	1
反対方向に行く	0

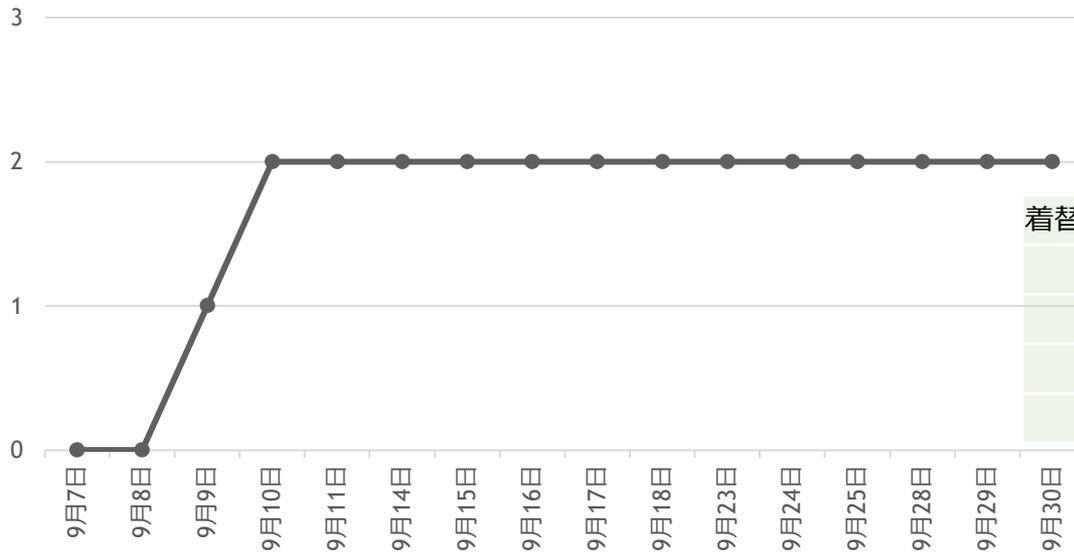
トイレに向かう



7月・11月の記録

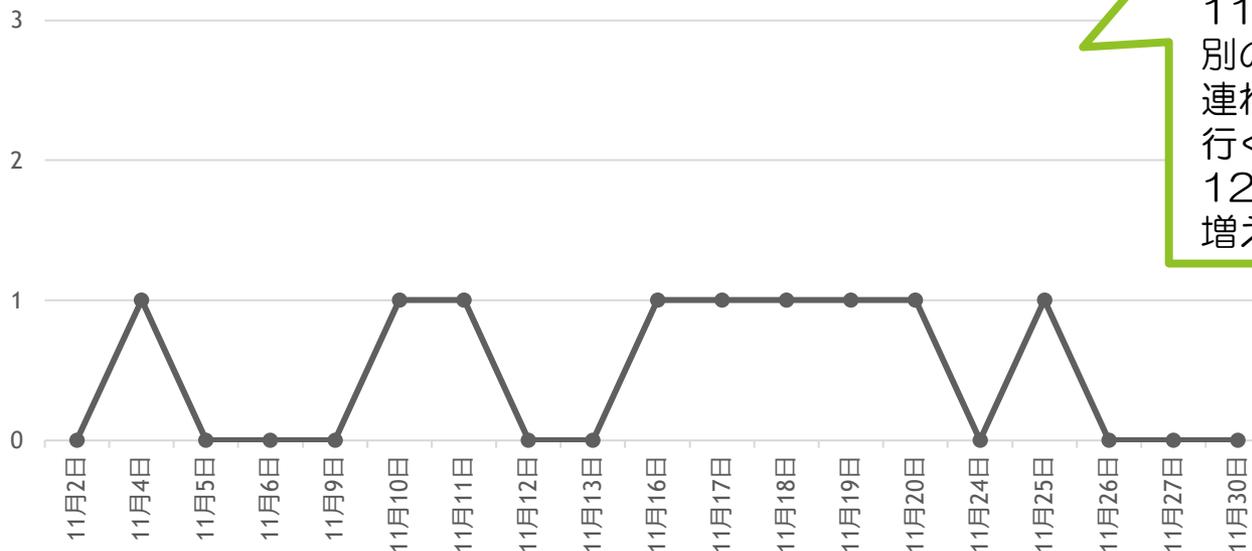
12月も同じような傾向を示す。
「トイレに向かう」活動は
ほぼ90%以上、自発的に
動けている。

着替えコーナーへ行く



着替えコーナーへ行く		
自発的に（カードを見て）		3
カード・サインを見て		2
促されて（指さし・方向の誘導）		1
身体的介助あり		0

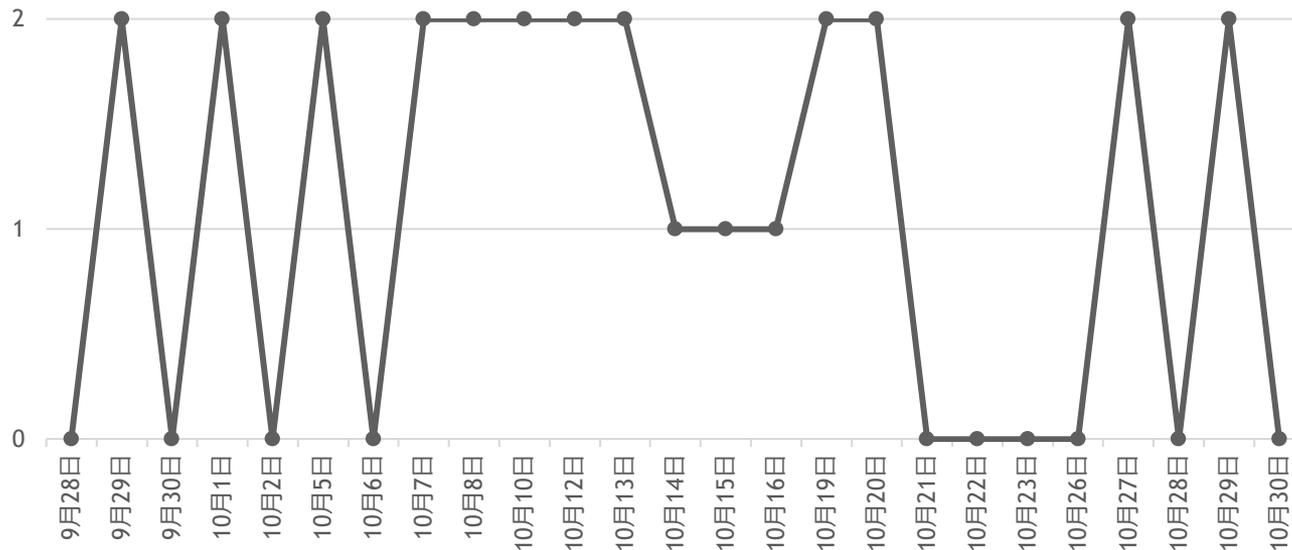
着替えコーナーへ行く



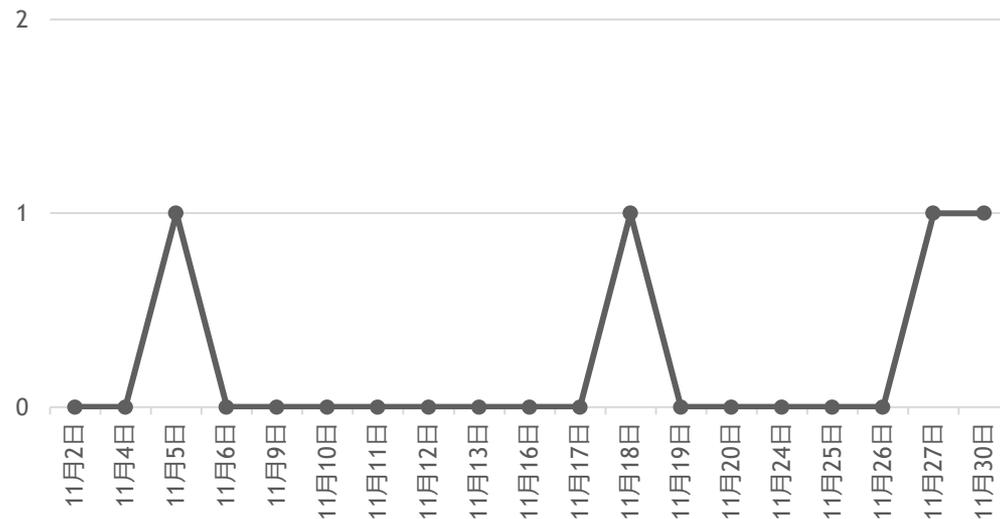
9月・11月の記録

11月になり、わざと別の所へ行こうとするので連れ戻され、身体的介助で行くことが多くなった。12月は、更に身体的介助が増えている。

トイレのサイン(お腹を叩く)



トイレのサイン(お腹を叩く)

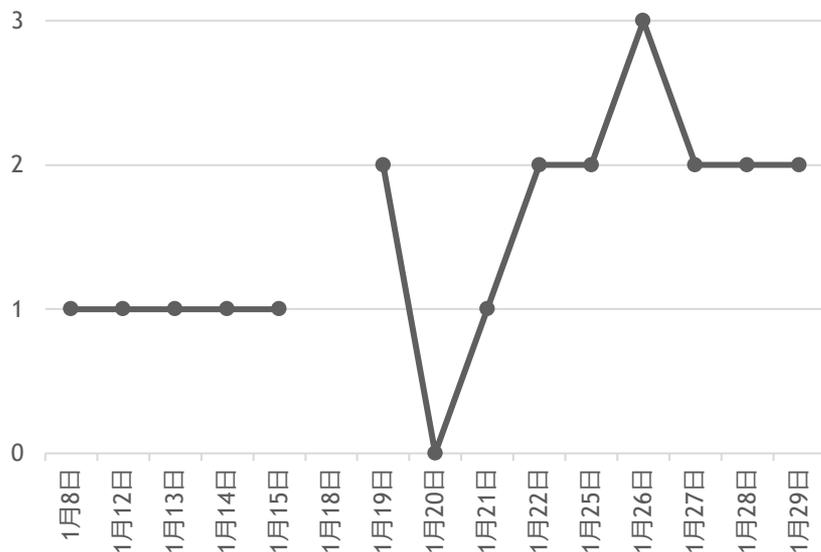


トイレのサイン(お腹を叩く)		
自発的に		2
促されて		1
身体的介助で		0

9月・11月の記録

11月になり、促されてもサインをすることを嫌がるようになった。12月も同様の傾向を示す。

着替えコーナーへ行く

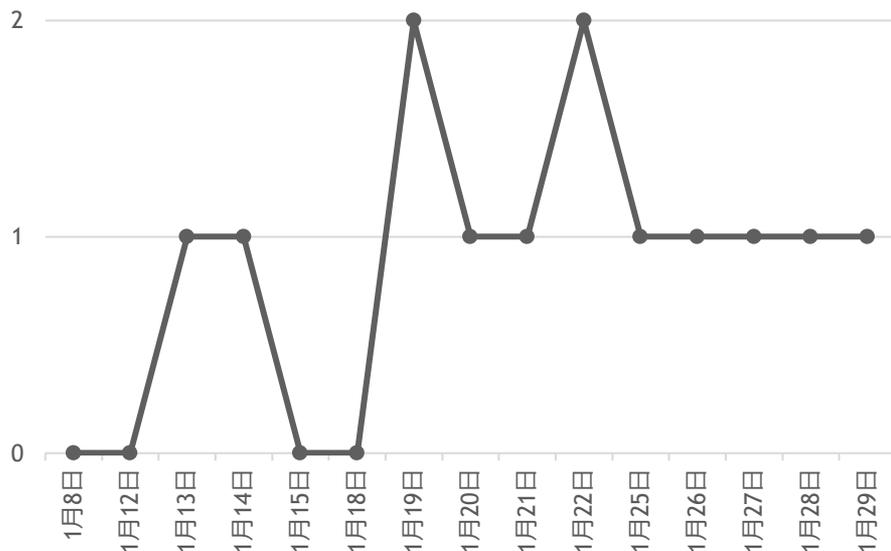


着替えコーナーへ行く		
自発的に（カードを見て）		3
カード・サインを見て		2
促されて（指さし・方向の誘導）		1
身体的介助あり		0

2回目のコンサルテーション
以降の1月の記録

自発的に移動したり
サインをしたりする
行為が復活してきている

トイレのサイン(お腹を叩く)



トイレのサイン(お腹を叩く)		
自発的に		2
促されて		1
身体的介助で		0

トイレの後告 記録表 var.2

	11月10日	11月11日	11月12日	11月13日	11月14日
1校時	10:00	9:30	9:45	9:45	9:30
2校時					
休けい	10:40		10:45		
3校時					
休けい	11:20	11:25	11:30	11:30	11:20
給食					
休校					
下校前	12:00	11:55	12:00	12:00	12:00
5校時	12:25	12:30	12:35	12:35	12:25
休けい					14:10
6校時					
下校前					15:05
特記事項					

出た(自発的に) ○ パンツに失敗 +
 寝ねども 答える △ 排泄なし /
 寝ねども 言わない □

*カードを見てトイレの扉を開いて
 トイレの方へ向う
 お腹を空くサインし
 いかに 返して
 4分以内

「排泄，トイレのサイン」

朝の活動 記録表

	11月10日	11月11日	11月12日	11月13日	11月14日
あいさつ(発声)	あり	なし	なし	なし	あり
くつのはきかえ	●	●	●	●	●
かごを持つ	○	○	△	△	△
タオルを出す	◎	◎	◎	◎	◎
かごに入れる	◎	◎	◎	◎	◎
水筒を出す	○	△	○	△	△
かごに入れる	◎	◎	◎	◎	◎
ふでばこを出す	○	○	○	△	△
引き出しに入れる	△	△	△	△	△
連絡帳を出す	○	○	○	○	○
「どうぞ」と返す(発声)	あり	あり	あり	なし	なし
ランドセルをロッカーに	◎	◎	◎	◎	◎
特記事項					

活動における支援の程度 ○ ◎
 一人でできる 指さし 声かけ+指さし 身体的支援
 発声の場面 あり or なし

「朝の活動における支援の度合い」

スケジュール 記録表

	11月10日	11月11日	11月12日	11月13日	11月14日
お茶をのむ(発声)水筒をさわる	「ちやー」	「ちやあ」	「ちやあ」	「ちやあ」	「ちやあ」
靴をはかる(サイン)体置計を取る	「はいはい」	「はいはい」	「はいはい」	「はいはい」	「はいはい」
連絡え(サイン)コーナーへ行く	「まっちゃん」	「まっちゃん」	「まっちゃん」	「まっちゃん」	「まっちゃん」
特記事項	音がのびたので1分遅く着いた				

カードの提示(声かけなし) カードを見ただけで一人でできる ◎
 カードを指さす(声かけあり) カードを指さすとサインを見るとき ○
 カードを指さす(声かけあり) 促しあり・物を指さすと・方向を誘導すると △
 「まっちゃん」のむ? 「おつを はかる」 身体的介助あり ●
 「音がえ」 「サインと一緒に」 何も見ない別の物をさわる □
 「音がえ」 「サインと一緒に」 別の物へ行く

「朝の活動中の発声やサイン」

朝の活動 記録表

	11月10日	11月11日	11月12日	11月13日	11月14日
あいさつ(発声)	なし	なし	なし	あり	
くつのはきかえ		●		●	●
かごを持つ	◎	◎	◎	◎	◎
タオルを出す	◎	◎	◎	◎	◎
かごに入れる	○	△	○	△	△
水筒を出す	○	△	○	△	△
かごに入れる	◎	◎	◎	◎	◎
ふでばこを出す	○	○	△	△	△
引き出しに入れる	△	●	△	△	△
連絡帳を出す	○	○	◎	◎	◎
「どうぞ」と返す(発声)	あり	あり	あり	なし	なし
ランドセルをロッカーに	◎	◎	◎	◎	◎
特記事項	外観をものして10:00に帰った				連絡帳の10:00に返す

活動における支援の程度 ○ ◎
 一人でできる 指さし 声かけ+指さし 身体的支援
 発声の場面 あり or なし

スケジュール 記録表

	11月10日	11月11日	11月12日	11月13日	11月14日
お茶をのむ(発声)水筒をさわる	「ちやー」	「ちやー」	「ちやあ」	「ちやあ」	「ちやあ」
靴をはかる(サイン)体置計を取る	「はいはい」	「はいはい」	「はいはい」	「はいはい」	「はいはい」
連絡え(サイン)コーナーへ行く	「まっちゃん」	「まっちゃん」	「まっちゃん」	「まっちゃん」	「まっちゃん」
特記事項	音がのびたので1分遅く着いた				

カードの提示(声かけなし) カードを見ただけで一人でできる ◎
 カードを指さす(声かけあり) カードを指さすとサインを見るとき ○
 カードを指さす(声かけあり) 促しあり・物を指さすと・方向を誘導すると △
 「まっちゃん」のむ? 「おつを はかる」 身体的介助あり ●
 「音がえ」 「サインと一緒に」 何も見ない別の物をさわる □
 「音がえ」 「サインと一緒に」 別の物へ行く

おわりに

朝登校してからの活動は、毎日同じことの繰り返しであるため、スケジュールなしでも、覚えてできる活動もあったが、覚えて、写真やイラストカードで1つずつ確認しながら行うようにした。

本児は、手順や提示されたものに興味や関心をもつとやる気になって自発的にできる反面、飽きるとやらなくなるという一進一退を繰り返してきた。

今回の事例研究により、アドバイザーからスケジュールの提示の仕方について助言を受けたり、指導の方法を確認したりすることができ、教師自身が自信をもって指導に当たることができた。

本児も、スケジュールの理解だけでなく、発声やサインを出すことができるようになり、生活の他の場面でもできることも見られるようになった。

スケジュールを確認する行動は、カードに注目したり、はがしたり、Boxに捨てたりという手続きにおいて、本児の集中力を高めたり、手先の巧緻性を高めたりすることにつながっているように思われる。

本児のこうした変化に保護者も共感していただき、家庭でもイラストカードで生活の流れを示したり、本児の意思を確認したり、カードを使ったやりとりをしたりしてくださるようになった。

まだ、定着には至っていないが、今回の取り組みを通して、スケジュールを理解して行動することができる(=スキルがある)ことが分かった。できないときがあっても、「今はやりたくないのかな？」と本児の思いを受け止めつつ、指導を継続していきたいと思う。